

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2016 成果報告レポート

助成番号 16-1-3

プロジェクト名 病気の子どものきょうだい支援を広げるための
シブリングサポーター養成事業
団体名 特定非営利活動法人しぶたね
所在地 大阪府
助成額 170万円
設立年 2003年
URL <http://sbtanecom/>



（団体について）

しぶたねは、病気をもつ子どもの「きょうだい」のための団体です。きょうだいが主役になりあそびきるワークショップ「きょうだいの日」や、病院内の活動、小冊子の作成配布、講演や啓発活動などを行っています。

きょうだいたちは、重い病気をもつ兄弟姉妹との人生の中で、病気についてわからない不安や、周囲の大人の目が自分に向かない寂しさ、プレッシャー、自責感、悲しみ、怒り…いろいろな気持ちを抱え、感じながら、大きくなっていきます。子ども時代に抱えた経験、複雑な気持ちは、たとえ兄弟姉妹の病気が治っても、きょうだい大人になっても、帳消しになるわけではなく、大人になってもしんどい気持ちを抱え続けるきょうだいもたくさんいます。保護者の方々もきょうだいのことを心配しながら、治療やケアに追われてなかなか思うようにきょうだいと過ごせずに悩んでおられたり、ご自身を責めてしまうということが起こっています。そんな保護者の方々の悩みを受け止めておられる支援職の方々からもまた、きょうだいたちに何をしてあげられるだろうと悩んでおられる声を聴いています。きょうだいたちのしんどさを、きょうだいや家族だけで抱えるのではなく、もっと社会のたくさんの方で関わっていけることがあるのではと感じ、活動をひろげてきました。

（助成による活動と成果）

きょうだいへのサポートの必要性が医療や福祉の場で認識されつつある今、きょうだい支援を担える人が増えなければ実際の支援の増加には結びつかないと考え、きょうだい支援を担える人や、きょうだいたちの応援団になってくれる人（シブリングサポーター）を増やしつなげることを目的とした「シブリングサポーター研修ワークショップ」を他府県（愛媛県、岡山県、兵庫県、愛知県、栃木県、東京都、千葉県、秋田県）に広げて10回開催しました。受け入れ先は病院の他、病気の子どもと家族を支援するNPO法人や任意団体、きょうだい支援をすでに行っている団体が手を挙げてくださいました。

研修ワークショップの内容は、テキストに沿ってきょうだいたちのもちうる気持ちを知り、きょうだいの安心につながる対応のヒントをお伝えする講座と、実際にきょうだいに関わることをイメージできるようなグループワーク、希望により、しぶたねで行っている、小学生きょうだいを対象としたワークショップを実際に大人同士で体験するプログラムで構成されています。

この1年で239名のシブリングサポーターが誕生し、病気の子どもと家族のためのイベント内で、きょうだいのためのプログラム作りに生かされたり、群馬県に新たなきょうだいのためのグループが立ち上げられたりと、きょうだいを支える輪が広がっています。また、各地で研修ワークショップを

開催することで、新たな人や団体とのつながりができ、再び講演に呼んでいただけることも増えました。

予想していなかったところでは、病院以外の場所で開催したことで、参加を想定していた看護師さんや病院の保育士さんに加え、特別支援学校の先生や、地域の訪問看護、児童デイの職員の方々の参加が多くあり、地域で暮らすきょうだいへの優しく熱い思いにふれられたことも大きな発見でした。

さらに研修修了者が集まる第 1 回のミーティングを行うこともできました。明日すぐに紹介できる親子あそびをみんなで楽しく学んだり、日頃きょうだいと関わる中で感じていることを共有して励まし合い、全国のシブリングサポーターのネットワーク作りの第一歩を踏み出しました。今後もミーティングを定期的で開催し、各地の実践とノウハウを共有・検証しながら、士気を高めることを目指していきたいです。

（残された課題、新たな課題）

研修ワークショップに参加してくださった方のアンケート結果や、研修修了者が主導してきょうだいのための新たな取り組みが増えている状況から、このような研修ワークショップのニーズと効果があることがわかったので、今後も引き続き各地で開催したいと思っています。

今年度は病院では 1 回しか開催できなかつたのですが、病院で開催すると次の日からきょうだいへのまなざしがぐっとあたたかくなることを実感しており（「これまでは子どもの退院時に、入院していたお子さんと親御さんへのメッセージを書いた色紙を渡していたが、明日からきょうだいへのメッセージも加えます！」と言って早速実践してくださることもありました）、受け入れ先になっていただく病院を増やしていくことが課題の 1 つです。

もう 1 つの大きな課題は、開催地によっては研修ワークショップを開催すればするほど赤字になってしまうことで、内容や価格設定、広げ方などに検討が必要だと感じています。

地域でも、病院でも、きょうだい支援の輪が広がるよう、引き続き考えていきたいです。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

15 年の活動を通して、きょうだいたちが抱えるしんどさの中には、社会のあたたかな理解と見守りがあれば解決できる部分が大いにあると感じてきました。研修ワークショップを通して、医療や福祉分野にきょうだい支援を担える人が増えていくことはもちろん大切ですが、「きょうだいにサポートが必要なんて考えたこともなかった」と興味を持って参加して下さる一般の方がおられたことに大きな希望を感じています。きょうだいたちが安心して自分の人生を自分らしく過ごすことができるように、きょうだいも当たり前大切にされる文化を作っていくために何が必要なのか、これからも試行錯誤を続けながら考えていきたいと思っています。

以上